

<< 前のページへ [1] 2 [3] [4] 次のページへ >>

最初のソニーBMG（ソニーとドイツバーテルスマングループの合併会社）の件とは、同社が出した音楽CDに付いているコピープロテクション機能で大きなトラブルがあった一件をさす。同防止機能付きCDをパソコンで聴くと、ユーザーの使用状況をソニーBMGにネット経由で報告するほか、ウイルスなどが入り込む隙（脆弱性の露出）を作ってしまう。プライバシー侵害とパソコンに被害を与える危険があるとして、米国では消費者がソニーBMGに集団訴訟を起こした。

もちろん、メディア関係者は、ストリンガー会長がこの問題には触れないと予想していた。にもかかわらず、冒頭から「懲罰をうけた」と懺悔にも似た言葉が聞けたことは意外だった。また、ソニーがコンテンツを持ったが故に、デジタル家電製品で革新的な製品を出せなくなったと言う批判についても「足かせになったかもしれない」と独白調で触れた。

都合の悪いことに口を閉ざす経営者が多い中、あえて基調講演の冒頭に述べるのは勇気ある行動だと言えよう。そうした経営者像は賛否両論があるだろうが、少なくとも問題に対して正面からぶつかってゆく姿勢を同氏が持っていることは間違いないだろう。まさに冒頭の数分で、講演の山場は終わったとも言える。

■ 高機能なウォークマン携帯と多目的端末のプレステ・ポータブル

こうした独白が終わると、エンターテインメント（e-Entertainment）、デジタル・シネマ（Digital Cinema）、ハイディフィニション（Higher Definition）、プレイステーションの4つをキーワードに、講演は決められたストーリーで走り出した。

<< 前のページへ [1] 2 [3] [4] 次のページへ >>